

子どもが楽しむ！笑顔が弾ける！日本一の子育てのまち「いこま」

子育てを楽しめる地域づくりを進めるため、未来の宝である子どもたちを家庭・地域・学校・行政が連携し、地域全体で見守り育てるとともに、子育て世代の保護者が孤立せず、子どもたちが安心して成長できるように、保護者支援の場や地域で支えあうためのコミュニティを構築します。

1 基本データ <県記載>

- ・順位は県内市町村の降順
- ・カッコ書きは県全体の数値

①人口増減率（H11年4月～H30年12月・約20年間）

増減率	順位	うち自然増減		うち社会増減	
		増減率	順位	増減率	順位
+5.8% (▲6.2%)	4位	+2.5% (▲2.1%)	5位	+3.3% (▲4.1%)	4位

②合計特殊出生率

H20～24年（年率）	順位	対H15～19年（年率）増減	③有配偶出生率 （15～49歳女性有配偶者1,000人あたりの出生数）	
			H27年	順位
1.26 (1.29)	19位	+0.09 (+0.06)	67.7 (74.4)	26位

④出生数（人）

H30年	⑤年少人口割合（15歳未満）		
	H30年10月	順位	対25年10月増減
822 (8,947)	14.3% (12.0%)	5位	▲0.6ポイント (▲0.7ポイント)

⑥子育て世代割合（25～44歳）

H30年10月	順位	対25年10月増減
21.3% (20.7%)	10位	▲5.2ポイント (▲3.8ポイント)

2 子育て家庭の現状と支援に関する課題

- ① 共働き世帯が増加しており、多様化する保護者ニーズの把握と対応が必要
- ② 子育てを地域で支え合う意識の低下や関係性の希薄化により、子育て世帯の孤立化防止が課題
- ③ ニーズにあった子育て支援情報が必要な人に届いておらず、有効活用できていないことが課題
- ④ 子育てにおいて、家族や知人などの身近な支援者が不足している家庭が増加しており、孤立化の防止対策が必要
- ⑤ 行政機関からの介入を拒否する家庭において、養育環境が不適切な状態となっており、解消するために多機関の連携が必要

3 子育て家庭への支援に関する基本的な考え方（目指していること）

- ① 地域における子育て支援に関わる人材の確保に努める
- ② ひろば事業、地域子育て支援拠点事業等を一体的に提供し、子育ての孤立化を防ぐ
- ③ 広報紙やHPだけに偏らず、チラシ等の紙媒体やアプリ等を活用し、受け手のニーズに合わせた手法で情報提供を行う

4 子育て家庭への支援に関する特徴的な取組

- ① 親向け講座（どならない子育て練習法・トリプルP講座・夫婦で受講するトリプルPセミナー）
- ② 父親向け講座（パパセミナー・パパひろば）
- ③ 親子向け講座（ひろば事業5種・親と子のあそび3種）
- ④ 母親向け講座（親子の絆づくりプログラム）
- ⑤ 子育て支援として行う赤ちゃん対策事業（赤ちゃんの駅）
- ⑥ 妊娠期からの支援ができるよう、マタニティコンシェルジュによる、妊娠届出時の全件面接や、地区担当保健師とともに電話、来所、訪問などによるフォローを実施

5 多様な主体による子育て支援の取組

- ① 子育てボランティア養成講座
- ② ファミリーサポート事業
- ③ (株) AsMamaの子育てシェア
- ④ 子育て支援センターと母子保健担当課（健康課）による共同事業の実施や情報共有会議を開催

詳しくは 生駒市ホームページ
<https://www.city.ikoma.lg.jp/>